

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【中郷区】意見交換の内容

開催日：令和 8 年 7 月 9 日（木）

会 場：はーとぴあ中郷 研修室

参加者：43 人

（参加者）

本日、若者が 5 人、スマイルミーティングに参加しています。現在、中郷区では、中郷区出身の 20～30 代を対象に、80 人規模のネットワークを作る事業を進めています。

（参加者）

最近、糸魚川市で小中学校の改編や小中一貫校の整備に関する話が出ていたと思います。上越市においては、直近で、安塚区・浦川原区・大島区の中学校在統合されました。牧中学校や雄志中学校についても統合の話があると聞いています。その地域に住んでいる人たちにとって、自分たちの地域から学校がなくなるということは、将来その地域で子どもが育つ可能性が失われることにつながり、非常に苦しい選択になると思います。小中学校の児童・生徒が減少している中でも、小中一貫校という形で学校を残す計画を立てただけだと、地域の希望になるのではないかと思います。

もちろん、市長がお話しされたように、人口減少によって将来に対してマイナスのイメージを持ってしまっている面はあると思います。その中で大切なのは、地域で頑張っているという明るいイメージを持てるかどうかだと思います。学校がその地域にあることは大きな励みになりますし、子どもたちの声が聞こえることはとても大切です。

幸い、中郷小学校と中郷中学校は立地的にも非常に近く、周囲を妙高市に囲まれた地域です。ぜひご検討いただけると嬉しいです。

（参加者）

私からは少し消極的な話になりますが、現実的に人口の変化を見ていくと、中郷区は妙高市に囲まれた位置にあり、このままの状況で子育てを続けていくことを考えると、将来への展望が見えにくい状況です。小中一貫校という方策もあるかもしれませんが、その先を見通すと非常に厳しい状況だと感じています。具体的に言えば、いずれは板倉区まで通学するようになるのではないかと思います。そうであれば、妙高市に転出し、妙高市で補助金制度を活用して家を建てようかと考える人が増えているという話も聞いています。そのことが、児童・生徒数の減少にさらに拍車をかけていると思っています。

私は、妙高市へ越境入学できるようになるとよいのではないかと考えています。実際に、中郷区では自分の加入したいスポーツクラブがないため、妙高市のはねうまアリーナで活動しているクラブチームに加入している人もいます。越境入学が可能になれば、そうした活動も継続しやすくなるのではないかと思います。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【中郷区】意見交換の内容

将来的な方向性を示していただくことで、子育て世代の皆さんが「それなら中郷区に住み続けてもいいかな」と思えるようになればありがたいと思っています。

（市長）

率直に申し上げますと、小中一貫校にしたからといって、必ずしも児童・生徒が地域に残ることに直結するとは思いません。よほど特色ある教育を打ち出さない限り難しいと思います。実際に、小中一貫校を望む声は、谷浜区や名立区でも同様にあります。また、中郷区と少し似ていますが、大潟区では小学校も中学校もそれぞれ一校ずつですので、事実上、小中一貫校のような状況になっています。繰り返しになりますが、小中一貫校が必ずしも解決策になるとは考えていません。

では、今後どうしていくかということですが、皆さんは令和7年度に中郷区で生まれた子どもは何人いると思いますか。統計では5人程度です。このままいけば、将来的に小学校や中学校も維持することは難しくなります。そのときどう対応するかが課題です。越境入学については、どの程度認められているのか調べてお答えします。（※最終ページをご覧ください）

また、将来的な話になりますが、上越市全体を一つの学区として考えることも、決してあり得ない話ではないと思っています。そうした体制が整うまでは、スクールバスなどで通学手段と安全を確保しながら、板倉区など近隣の学校へ通っていただくことになると思います。極端に少人数で教育を受けるよりも、ある程度の児童・生徒数の中で切磋琢磨して教育を受ける機会が大切だと考えています。

（中郷区総合事務所長）

子どもの減少については、総合事務所でも詳細な推計を行い、今後どの時期にどの程度の子どもの数になるかを把握していきます。その上で、どのような対応が可能かについて、教育委員会とともに検討していかなければならないと考えています。

また、地域協議会やまちづくりに関わる皆さんの意見をいただきながら、将来の子どもたちのために何ができるかを一緒に考え、取り組んでいきたいと思っています。

（参加者）

私は地域の活動に携わる中で、多くの子どもたちと関わってきました。本日参加してくれた若い皆さんとも20年前から関わりがあります。中学生の頃から「ずっと大好き中郷」という思いを持って、地域とのつながりを大切にしている人たちです。数年後には学校統合など、様々な議論が出てくると思います。しかし、私たちの世代の考えだけで物事を進めるのではなく、本日参加してくれた若い皆さんやこれから子育てをしていく世代の意見をぜひ取り入れていただきたいと思っています。

また、単に数字だけで学校の再配置を判断するのではなく、地域に学校があるという大

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【中郷区】意見交換の内容

切さについても十分に協議しながら進めていただきたいと思います。

（参加者）

市長のお話の中で、特に印象に残ったことが一つありました。それは、「トイレをきれいにすると、様々な効果がある」というお話です。私自身も、まずトイレが大切だと強く感じています。トイレの改善から取り組みを始めた企業は成功することが多いという話も聞いたことがあります。そのため、市長がトイレ整備を重視するとおっしゃったことに大変共感しました。

今日は観光の関係で、お話しさせていただきます。中郷区は上越市の中でも特に恵まれた地域だと思っています。妙高市に近いこともあり、観光資源は妙高市に劣らない魅力を持っていると感じています。私は4年前に市外から中郷区へ戻り、生活を始めました。市外にいた頃、上越市の良いところを聞かれると、私は必ず松ヶ峯から望む妙高山の景色を紹介していました。後日訪れた人の感想を聞くと、「こんなに素晴らしい場所があったのか」と驚かれることが多く、春夏秋冬いつ訪れても楽しめる景色だと言われます。紅葉、雪景色、そして春の桜と、本当に素晴らしい景観です。

中郷区総合事務所だよりに防衛省の特定防衛施設周辺整備調整交付金について、道路補修などへの活用が紹介されていました。道路補修は本来、一般財源で行うべきという思いがあり、防衛省からいただいた交付金が、なぜ別のところに活用されないのだろうと違和感がありました。

また、事業紹介記事の中には、防衛省と地域社会の協力を象徴するエンブレムが掲載されていましたが、中郷区内ではエンブレムを活用した取組や施設などが見当たりません。

観光道路は県道ですが、桜並木は上越市が管理しています。この景勝地を観光資源としてさらに発信していただけないでしょうか。現在、桜並木は老朽化が進み、いつ枝が折れてもおかしくない状態です。新たな植え替えを検討するとともに、遊歩道の整備も行い、上越市を代表する景勝地として位置付けていただきたいと思います。財政的に厳しい状況であるとは思いますが、ぜひご検討ください。

（参加者）

関山演習場では実弾射撃が行われており、最近も窓が震えるほどの大きな音がすることがありました。総合事務所からは、防災行政無線で「風向きによっては大きな音がしますのでご注意ください」といった放送が毎日のように流れています。演習場では毎日訓練が行われ、長い時には朝から午後10時頃まで続くこともあります。その迷惑料として特定防衛施設周辺整備調整交付金があり、毎年度4,500万円程度が入ってくると認識しています。

本日の配布資料には、令和8年度の特設防衛施設周辺整備調整交付金を活用して消雪パイプ更新工事を実施するとの記載がありました。中郷区の皆さんの生活がしやすくなると

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【中郷区】意見交換の内容

いう意味であれば良いのですが、「更新」ということは既存のものを直すということであり、敷設当初と同じ状態に戻るだけだとも考えられます。そう考えると、特定防衛施設周辺整備調整交付金の中郷区に住む住民の生活環境の改善として使われていないのではないかという疑問があります。中郷区の皆さんは、明治時代からこの演習場があることを理解しており、大きな問題提起をすることはありませんでした。その上で、特定防衛施設周辺整備調整交付金の使い方について改めて考えていただきたいです。

先ほどの意見にあった桜並木の植え替えについても、特定防衛施設周辺整備調整交付金を活用できるのではないのでしょうか。また、妙高サンシャインランド近くのため池から妙高山を眺める観光客は非常に多く、カメラを持って訪れる方もいる中で、池への転落防止の柵が朽ち果てていて危険な状態です。さらに、そこから続く遊歩道も現在は荒れており、観光地として非常にもったいない状況になっています。松ヶ峯は演習場のすぐ隣にありますので、特定防衛施設周辺整備調整交付金を計画的に活用し、観光地にふさわしい景観を整備していただきたいと思います。

また、中郷区総合事務所だよりの、特定防衛施設周辺整備調整交付金を活用した事業の紹介記事の中に「小中学校の給食の調理事業基金に積み立てました」や「基金から 200 万円取り崩しました」といった記載がありました。中郷小中学校は上越市立の学校であるにもかかわらず、なぜ中郷区の迷惑料として受け取る特定防衛施設周辺整備調整交付金が使われてしまうのか、とても残念に思います。使途については、中郷区まちづくり振興会や地域協議会などで決定できるような仕組みを設けていただきたいと思います。もちろん、公金の執行に関する最終的な判断は総合事務所にお任せしますが、中郷区を特に大事に思っている地元の団体がありますので、使途の検討についてはぜひそうした仕組みを検討していただきたいと思います。

（中郷区総合事務所長）

今回いただいた特定防衛施設周辺整備調整交付金の活用に関するご意見については、これまでも市長へ報告しており、早急に検討を行うよう進めております。今年の5月に北関東防衛局を訪問し、また、県道に関する内容については上越地域振興局へ伺いました。皆さんからいただいたご意見について、実施可能か関係機関と協議を進めています。関係課でも道路や財政面の課題を整理しながら検討していますので、その点をご理解いただきたいと思います。

特定防衛施設周辺整備調整交付金の活用については、ハード面やソフト面など様々な事業がありますので、総合的な事業案を判断するのは総合事務所だと考えています。財政部局とも相談しながら取り組んでいきたいと思っています。

（市長）

特定防衛施設周辺整備調整交付金の活用については、今まで以上に地域の皆さんと十分

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【中郷区】意見交換の内容

に相談して決定させていただきたいと思っております。

また、松ヶ峯の話も伺っておりますし、そちらにも特定防衛施設周辺整備調整交付金を活用できないか、今後相談させていただきたいと思います。いずれにしても最も大切なのは地域の皆さんのお考えです。そのご意見を尊重すべきという点については、私も全くそのとおりと考えています。

（参加者）

冒頭の説明で要援護世帯の除雪費助成について、一世帯当たり 72,100 円の予算があると伺いました。2～3 年前までは現在よりも助成額が低く、地域によって金額に差がありました。現在は全市一律で、一世帯当たり 72,100 円という基準になりました。直江津地区や柿崎区と、中郷区のような豪雪地域で助成額が同じになっているのは非常に残念です。

冬季に各世帯を訪問していますが、屋根の雪下ろしに加え、玄関前の除雪や機械除雪などを行うと、72,100 円という金額は 1 回の除雪でほぼ使い切ってしまうと思います。降雪状況によっては 1 シーズンに 2 回程度の除雪が必要になることもあります。除雪費助成については市長から検討いただけるとのお話がありましたので、ぜひ今年度中に考え方を見直していただければと思います。

また、中郷区から住民が減少している要因の一つは豪雪だと思います。雪が多く、生活が大変だという状況があります。若い世代も少なく、私の住む町内でも若い世代がほとんどおらず高齢者が中心です。小中学生も 1～2 人ほどしかいない状況です。高校卒業後に進学や就職で中郷区を離れ、そのまま戻ってこない人が多くなっています。小中学校の統合の話もありますが、中郷小学校、中郷中学校には素晴らしい環境があるので、県外からの宿泊を伴う教育活動ができるような施設を整備するなど、人を集める新たな方法がないかと考えています。

（参加者）

私の住む町内会では「除雪お助け隊」を組織しています。若い人たちを中心にボランティアを募り、一人暮らしの人や除雪ができない人から依頼を受けて除雪作業を実施しています。一世帯当たり 72,100 円の助成は大変ありがたい制度です。しかし、私が住む地区は特に雪が多く、1 シーズン 2 回の除雪では足りず、3 回程度必要になることもあります。「除雪お助け隊」は、報酬についてもボランティア的な要素を含めながら運営していますが、3 回目の除雪になると 72,100 円の助成額では足りない状況です。現在は、お助け隊の皆さんに協力いただき、本来 1 時間半程度かかる作業を 1 時間 10 分程度で終わらせるよう工夫するなどして対応していますが、やはり金銭的には厳しい状況です。お助け隊の皆さんも自分の家のことがある中で無理をして参加してくださっています。そのような状況も踏まえて再度ご検討いただければ非常にありがたいです。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【中郷区】意見交換の内容

(参加者)

私は除雪業者をしています。除雪作業については市の基準により対応しており、今年は延べ78件の除雪を行いました。屋根雪を下ろしたままにしておくと、高齢者はとても不安がります。要望に応えると、どうしても費用が上がってしまいます。高齢者は本当に不安を抱えています。朝5時頃から「うちの除雪はまだですか」という電話が来ますし、夜の10時頃になると「今日来てくれなかったけどどうすればいいですか」「明日は来てくれますか」「うちは何番目ですか」といった問い合わせが続きます。私たちも人手不足のため、上越市内から毎日10人ほど応援に来ていただきながら作業しています。高齢者の気持ちを考えると、安心して過ごせるようにしてあげたいと思いますが、そうすると一世帯72,100円の助成額では厳しいと思います。若い人は区外へ転居し高齢者のみの世帯が多く、離れて暮らす子どもからは「助成制度を利用して業者に除雪をしてもらって」と言われるケースもあるようです。除雪費のために貯金しているとか、年金を貯めているという人もおられます。雪が夜間に積もると眠れなくなるほど心配される高齢者が多くいますので、助成額について少しでも配慮していただければありがたいと思っています。

もう一点です。消雪パイプの水が住宅側へ流れ込んでいる箇所があります。以前の舗装工事で、道路面が住宅の敷地より高くなってしまったため、消雪パイプの水が住宅の玄関方向へ流れ込んでいる状況です。私としては、工事の施工方法そのものに問題があるのではないかとと思っています。住宅より道路が高くなってしまうような構造では困ります。水が流れ込んで玄関まで浸水している状況です。こうした工事の際には、住民の意見を十分に聞き取る柔軟な対応も必要ではないかと思っています。

(中郷区総合事務所長)

ご指摘のありました消雪パイプと舗装工事の件については、明日現場を確認し、速やかに対応させていただきます。今後、同路線で消雪パイプの改修工事が実施される予定もありますので、併せて対応可能な部分についてはしっかりと取り組みたいと考えています。

(市長)

要援護世帯の除雪費助成については冒頭でも少し触れましたが、大きく3つ問題があると思います。

一つ目は助成額の問題で、72,100円で十分なのかという点については、本日皆さんからも不足しているというご意見をいただきましたし、他の地区からも同様の声が寄せられています。現在検討を進めており、来年度予算への反映を目指しています。

二つ目は、助成対象の範囲です。「隣の家は対象なのに自分の家は対象にならない」という声もありますので、どのような世帯を助成の対象とすべきか検討しています。

三つ目は、人手不足の問題です。地域によっては若い人たちが互助組織をつくり、支え合いながら除雪を行っています。そのような体制を維持することが難しい地域もありま

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【中郷区】意見交換の内容

す。

現在、新潟県でも除雪の人材不足への対応を進めています。例えば、上越市で人手が不足している場合に柏崎市など他地域から応援を受けられるよう、市域を超えた人材確保の仕組みを検討しています。

また、県では、これまで除雪業務を行っていない事業者や建設業者などに対しても、除雪業務に参入してもらうよう働きかけを行っています。

市としても様々な観点から検討を進めており、少ない人数でもできるだけ効率的に除雪できる仕組みづくりを進めたいと考えています。その一環として、令和8年2月に私自身が国土交通省を訪れ、除雪関連予算の確保や、センサーなど新たな技術開発への支援を要望してきました。そうした技術を、除雪に苦勞している自治体へ適切に配分していただくこともお願いしています。人材不足への対応も含め、引き続き検討を進めていきたいと思っています。

（参加者）

中郷区まちづくり振興会に携わっています。現在の地域独自の予算事業に代わる新たな補助制度について、先ほど市長から補助率を上げる方向で検討しているとのことをお話をいただき大変心強く感じていますし、私たちの活動への励みにもなっています。

しかし、実際に活動を進める中で、中郷区まちづくり振興会だけでなく、中郷区さとまる学校を始めとする中郷区の各団体において、活動資金や運営資金の確保が大きな課題になっています。イベントに対する補助率の引き上げは大変ありがたいのですが、昨今の物価高騰の影響もあり、団体を運営していくための経費負担が増加しています。資金面の負担が大きくなると、活動を継続して次世代へつないでいくことが難しくなります。活動資金の支援については、単に広く配るだけではなく、実際に積極的に活動している団体に対して重点的に支援する仕組みとなるよう、ご検討いただきたいと思います。行政からは、中郷区の取組が他地域のモデルケースになっているとのことのお話もいただいていますので、そうした支援であれば、私たちもより一層、地域の活性化に取り組んでいけると 생각합니다。

（市長）

今お話しいただいたのは、イベントを実施する際の補助対象経費ではなく、事務局運営に係る経費や人件費などが補助対象になっていない、という趣旨でしょうか。

（参加者）

イベントそのものにかかる費用だけでなく、設備費や日常的な運営費についても課題を感じています。

（市長）

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【中郷区】意見交換の内容

事務局というのは、中郷区まちづくり振興会を運営していくうえで常駐しているということですね、分かりました。

（参加者）

合併直前に、他区の団体には合併前の町村から 2,000 万円から 3,000 万円程度の支援があったと聞いていますが、中郷区ではありませんでした。振り返れば、その当時からもっと強く要望すべきだったのかもしれませんが、そのような状況の中でも、町内会の皆様のご協力をいただきながら 20 年以上活動を継続してきました。先ほどの意見にもありましたが、市の関係課の皆さんが来られるたびに、「中郷区は他地域のまちづくりのモデルになっている」と評価していただいております、大変うれしく感じています。

しかし、近年は最低賃金の上昇が続いています。中郷区まちづくり振興会では、運転業務や店舗業務など様々な職種の職員を雇用していますが、最低賃金の改定に合わせて、毎年 10 月に賃金単価を見直さなければならない状況です。

また、物価高騰の影響も大きく、例えば夏まつりの一部業務を委託するだけでも経費が大幅に増加し、資金繰りに苦労しています。

中郷区まちづくり振興会の理事は比較的若い世代が担っており、「こんなことをやりたい」「あんなことにも挑戦したい」というアイデアはたくさんあります。中郷区さとまる学校でも、子どもたちを中心に据えた様々な取組を進めています。やりたいことは数多くありますが、それを実現するための資金確保に苦慮しているのが現状です。

（市長）

お話を伺い、課題は大きく二つあると感じました。一つは、事務局スタッフを含めた人材確保の問題です。もう一つは、事務局機能を維持・強化していくための体制づくりの問題です。

先ほど申し上げた補助制度全体の見直しと併せて、人材確保についても検討を進めています。場合によっては、中郷区まちづくり振興会で若い人材を雇用していただき、その人件費に対する支援を行うことも考えています。

地域振興のために非常に活発な活動を展開していただいていることに、改めて感謝申し上げます。来年度から新しい制度へ移行する場合でも、これまでの活動を後退させるような見直しにはしない考えです。皆さんが積み上げてこられた実績を尊重し、できる限り現在の活動を継続していただけるような制度設計を考えていきたいと思っています。

（参加者）

先ほど松ヶ峯の観光についてお話がありましたので、関連して発言させていただきます。松ヶ峯温泉ひばり荘は昭和 49 年に建設され、平成 27 年に運営が上越市から民間へ移りました。しかし、現在は休止されており、高齢者の憩いの場がなくなってしまいまし

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【中郷区】意見交換の内容

た。そのため、高齢者だけでなく若い人たちも利用できる温泉施設として再び整備され、活用されることを希望します。

（参加者）

ひばり荘については私も大変もったいないと感じています。周辺には縄文公園や妙高山を望む景勝地もあり、非常に魅力的な地域です。少し整備を行えば良いキャンプ場になりそうな場所もありますし、高速道路のインターチェンジからも近い立地です。現在もキャンプブームは続いていると思いますので、ひばり荘周辺にキャンプ場を整備することについても検討していただければと思います。

（市長）

まず前提として、ひばり荘は平成 27 年から民設民営で運営されている施設であり、現在は市の施設ではありません。そのため、市が直接介入して営業を再開するよう求めることは難しいということをご理解いただきたいと思います。

また、仮に新たな施設を整備するとしても、現在の市の財政状況を考えると容易ではありません。新しく整備したとしても、採算が取れるのかという課題があります。

現在、市内には委託によって運営されている施設が各区にあります。その多くは大きな赤字を抱えています。そのため、今後それらをどのように維持していくのかについても検討しているところです。行政としては、まず既存施設を有効活用していくことが基本であると考えています。もちろん、住民の健康づくりや福祉のために必要な施設については維持すべきだと考えていますが、その点も含めて現在検討を進めています。

（中郷区総合事務所長）

キャンプ場のご提案もいただきましたが、ひばり荘に限らず、周辺には縄文公園やため池、妙高山を望む景勝地など、多くの地域資源があります。こうした資源を活用しながら、中郷区まちづくり振興会や地域協議会の皆さんと知恵を出し合い、賑わいをつくることのできないか、総合事務所としても積極的に取り組んでいきたいと考えています。

（参加者）

自分は若者と話す機会があまりないと思っています。若者とひとまとめに言っても、世代が違いますし、子育てや介護をしている方など、それぞれ置かれている状況は異なります。そうした様々な世代の若者が交流できる場所や機会が市内にあるのか、お聞きしたいです。

（市長）

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【中郷区】意見交換の内容

現在、子育てしている世代が利用できる施設として、オーレンプラザと市民プラザの「こどもセンター」があります。私が提案している「多世代交流プレイス」は、そこに小学生、中学生、高校生にも来てもらい、様々なイベントを通じて交流できる場所を13区中心に整備していこうというものです。

また、一例ですが、高田エリアで関根学園高校の生徒が、高校生が集えるサードプレイスのような空間づくりを進めています。

市としても若い人の交流の場は複数設けています。学生や若い社会人が、どのような要望を持ち、どのような施設や機会を求めているのか、今日も議論しました。例えば、一日過ごせるような施設や、スポーツやゲームもできるような民間の施設もあります。そうした施設が本当に必要なのか、あるいはバンド活動などのサークル活動の機会を提供する方がよいのか、様々な視点から検討しています。

皆さん自身が、市に対して「こういうことをしてほしい」と思うことはありますか。

（参加者）

個人的には特に要望はありません。少し否定的な意見になるかもしれませんが、オーレンプラザや高田周辺の施設となると、名立区や大湊区、中郷区などの離れた地域から行くには負担が大きいと感じます。移動にも30分程度かかります。そうした地域の人たちも利用しやすい場所として整備していくという理解でよろしいでしょうか。

（市長）

今年度は、まず柿崎区と板倉区で整備を進める予定ですが、その後は順次広げていきたいと考えています。例えば牧区では、まだ正式な名称はありませんが、農協や金融機関、学校、子育て世代などの機能を一か所に集約するというアイデアがあります。

もちろん、人口減少が続く中で、それだけで地域維持の決定打になるかどうかは分かりませんが、少しでも皆さんが元気に暮らし続けられるような機会や場所を提供していきたいと考えています。若い皆さんのご意見についても、ぜひ、今後別の機会にお聞かせいただきたいと思います。

（参加者）

私が申し上げたいのは、「地域で子どもを育てる」ということです。人口の都市部への流出が続いている状況は変わりませんし、市全体でも人口減少が進んでおり、マイナス要因が多い状況です。

ただ、お願いしたいのは、これを中郷区だけの問題として捉えてほしくないということです。本日配布された資料にもさまざまな支援制度やサービスが掲載されていますが、それらを実施するためには当然、市の財源が必要になります。魔法のようにお金が湧いてくるわけではありませぬので、各地域で支援や補助を行うためには、その財源をどのように

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【中郷区】意見交換の内容

確保していくのが重要だと思います。以前はふるさと納税についてあまり積極的な取組が行われていなかったように思いますが、その後、地元出身者がふるさとのために寄附してくださる機会が増えてきました。ふるさと納税以外にも手法があるのであれば、市として財源確保に向けた方策を議会とともに検討し、積極的に提案していくべきだと思います。

また、産業振興の面でも、企業誘致などによって税収増加を図るとともに、若い人たちの雇用の場を確保することが重要だと考えます。各種サービスや若者向け施策も、結局は財源がなければ実施できません。財源を確保しつつ、人口減少を少しでも抑えながら地域の機能や体制を維持していく施策を進めていただきたいと思います。

私たちも地域から提案できることがあれば協力しますので、若い人たちが活発に活動できる環境づくりにつなげていただければと思います。

（市長）

私も、それが最も重要なことだと思っています。そのための一番の近道は、既に市内に立地している企業に追加の設備投資をしていただくこと、新たな企業を誘致することだと考えています。さまざまな取組を進めていますが、企業は採算が見込めなければ進出していただけません。そのため、市では各種優遇制度の整備や工業団地の造成などを進めています。

また、ふるさと納税については、昨年度、初めて寄附額が10億円を超えました。今年度は15億円を目標としていますが、現時点では厳しい状況です。要因として、ふるさと納税の返礼品の約7割を米が占めており、今年は米価の下落が見込まれているため、その影響を懸念しています。一方で、新たな返礼品の開発のほか、さまざまな形で寄附を募っています。例えば、上越教育大学や新潟県立看護大学、上越高校、関根学園高校などへの寄附を希望する人を対象とした仕組みも既に実施しています。

そのほか、各種イベントの開催に合わせて入場券を活用した寄附の仕組みなども取り入れながら、財源確保に努めています。

P.2 ※

学校区については、行政区毎に規則で定められており、学校区や市を超えての転入学は原則認められませんが、DV避難や年度途中の転居など、教育委員会が定める許可事由に当てはまる場合は、校区外もしくは区域外就学の申請により教育委員会が許可を行っています。なお、現時点において市全域で学校を選択できる制度の導入予定はありません。